恐るべき皮膚病

愛國婦人八月號に醫學博士眞家眞氏ののせてゐるところであります。幼稚園などに於て特に注意すべきことがありますから茲に抄錄いたします。

醫學博士　眞　家　眞

皮膚病を輕視するな

昔は俗に四百四病と云つて、人間の病氣は全部てそれだけの種類しかない樣に思つて居た樣ですが、決して私達の身體に起る病氣はそんな僅かな數でなく、單に皮膚だけの病氣でもそれに近い數だけの種類があります。殊に一般の人達は皮膚病と云ふと直ぐ『クサ』とか『タムシ』とかを考へて、そんなもの許りが皮膚病であつて、兎角くにこの種の病氣を輕視して、良い加減の治療で濟ませようとする傾きがあります。然し乍ら皮膚病の中には甚だ重大なものや、未だに原因の不明のもの、病名の不明のものが澤山あつて、中には生命に關係するやうなものも多いのです。例へば癌腫、肉腫、丹毒、ちよう等は矢張り皮膚病の一種で是等の病氣の恐る可きものである事は既に御存知だらうと思ひます。又中には痲疹のやうに皮膚の表に異常が現はれて來るために內臟が病氣である事が發見されるものもあり、或は一生涯遂ひに癒り切らない慢性濕疹、皮膚結核、癩病等のやうな執拗なものもあります。その他年齡や氣候風土の關係のあるもの等もあつて、痲疹や水痘等は子供にのみ見られる病氣で青年期に這入ると殆ど影を潜め

て了ひますが、その代り『ニキビ』等の病氣が出て來て青春期の男女を惱まします。『ガンガサ』とか皮膚癌のやうなものは老人が主で、若い人達には見られない疾患です。

風土病としては『フランベヂア』と云ふのが最も代表的に有名なものでこの病氣は主に熱帶地方に流行し、見た所梅毒によく似て居るので知られて居ます。之れに反して外國には影を見ないが日本には到る所で見受けられるやうな病氣もありますが、かう云ふ限られた地域內にしかない特殊な病氣は、外界の氣溫の關係で現はれて來るものでその他季節とは切つても切れない深い絆で結ばれて居るやうな病氣もあります。其處で私は此頃の樣に暑氣が關係して皮膚が犯されるやうな病氣の主要なものを簡單に述べて、それの注意とどうしたら治療できるかに就いてお話したいと思ひます。

皮膚の構造

然しその前の順序として、私達の身體を包んで居る皮膚とはどんなものであるか、また是れがどんな働きをするかを、極めて簡單に云ひますと、私達の身體は骨格を柱として、是れに肉を添へその外側を包んで居る袋のやうなものが即ち皮膚でありまして、その構造は眼に見た程單純なものではなく、仲々複雜に出來て居りますが、大別すると表皮、眞皮、皮下組織の三つから出來上つて居ります。そして之れに血管とか淋巴管とか神經、汗や油の出る汗腺、皮脂腺、又は毛髮とか爪、色素等が加はつて居て、外界の種々な刺戟に依つてそれに適應した影響を被つたり、雜多な官能を働らかせたりするのです。言葉を代へて云へば知覺作用の外、呼吸とか吸收、分泌によつて身體の新陳代謝を補けまた暑さ寒さを調節する機械となつて外に對して內を護る保護の用を務めて居るのです。

季節が關係して起る皮膚病にも種々原因があつて夏なども單に暑さだけで起ると云ふのでなく、其處には必ず身體の何んかと結び付いて起るのであつて、例へて云へば皮膚の分泌や排泄が暑さのために異狀を起して發患するもの、または黴菌の寄生に依るもの、日光光線の刺戟が强すぎたため皮膚が犯かされるもの等、それ〴〵よつてもつて來る所の原因は違つて居りますから、此處でも原因のそれ〴〵に從つて大別して行く事にします。

ソバカスや皮膚病

先づ第一としては日光光線の刺戟によつて來るものから云へば、夏期には特に日光過敏症と云つて直ぐ皮膚に炎症を起す素質の人が居ります。その他では日燒け（夏日班）ソバカス（雀卵斑）シミ（肝斑）等で、以上の皮膚病は顏を犯される夏の皮膚病の內、最も廣く知られて居るものです。元來太陽の光線の中には紫外線と云つて人體に餘り良い影響を與へない光線があります。で皮膚の方でも色素がその光線を吸收して、その害を自分一人で防がうとするのですが、餘り光線が强すぎたり永く日に曝らされて居ると自然と色素の出方も增加して來るので、その色素のために皮膚の色が黑くなつて來るのです。でかうした事に依つて黑くなつたものを日燒けとかシミとか云ふのですが、ソバカスはこの現像の一層烈しくなつた場合に起るのです。で是等のものを豫防するには、成可く日光に直面しない事が肝心で、若し外出の際とか海水浴をやる場合には、化粧用の日やけ除け塗布料を使ふのが良いのです。また皮膚が荒れる位のものならばベルツ水液で結構です。

第二に皮膚の分泌、排泄、吸收の異樣に依つて起つて來るものに濕疹、皮脂漏、座瘡面皰（ニキビ）、多汗症等があります。

濕疹　汗の分泌が激げしいためその刺戟で起る

ものであつて頸筋とか、腋窩、股間のやうな、汗を餘計にかく所または摩擦する所に出來ます。輕い場合ならば天花粉、硼酸末、亞鉛華澱粉、汗知らずの樣な撒布劑を、充分患部の汗を拭ひ取つた後に、振りかけて置けば癒りますが、重いものは石鹼や刺戟の强い藥を使はないやうにして、先づ水で汗を拭き取つた後、亞鉛華とオレフ油の等分のものを塗つた上、前に述べた撒布劑をつけて置けば治ります。尙ほかう云ふ際には始終、汗や脂肪を取り去るやうに心掛けて、皮膚を淸潔にする事が最も肝心で、殊に子供の頭や顏や頰に出來ると痒ゆいために瘙きむしつて餘計に惡くして了ふやうな事がありますから、其處も氣を付けねばなりません。此の皮膚病は皮膚の疾患中一番數も多く、また慢性にもなり易いもので若し慢性にでもならうものなら十數年も毎年これに苦しめられるやうな事があります。で慢性の療法としてはX光線を用ひる場合がありますが、一般の場合はその急性期が終つたならばビチロール、チオール、イヒチオール等の軟膏を塗布すればよろしいのです。

皮脂漏　鳥渡も身に覺えがないのに眉毛や頭部の毛が氣味が惡い程拔ける事がよくあります。そして梅毒の遺傳があるのではないだらうか又は禿頭病に犯されたのではないかと心配する人がありますが、之れは夏期、皮膚面に脂肪の分泌が高まつて來るのが原因で、かう云ふのを皮脂漏と云ふのです一體毛髮は健康な人でも毎日十本乃至二十本は拔けるものでして決して病的な現像ではないのです。で少しでも目立つて脫毛するやうな人は成可く脂肪分の强い食物を採らないやうにする事と、アルコール性の飲料を嗜なまない事で、脂漏の手當てとしては、毛の生えて居る部分には五〇パアセントのレブルチンアルコール、皮膚にはベルッ氏液などを用ひれば良いのです。

座瘡面皰（ニキビ）　思春期になると身體の活動が一時に潑剌として來るので皮脂線の機能も盛んになり、從つて分泌物條も濃厚になります。殊に春から夏にかけては一層激しくなつて來るものでこの分泌物が顏面や背部に重なつて溜つたものがニキビです。これは始めは極く小粒な腫物ですが觸つたり搔いたりして刺戟を與へると、炎症を起すやうになつて、膿を持つたり惡性のものになると治つた後にも見苦し跡を殘すやうになります。で療法としては皮膚面に强い刺戟を與へないやうにするために、石鹼は時々使ふやうにして水で汗や脂漏を除く事を心掛ける事が第一で、晝間はベルツ水、就床の際はイヒチオールの軟膏を塗るやうにするのです。尙ほ最初、小粒のものが小々出來た位のものならばピックを貼つて置けば容易に治ります。全體ニキビの多く出る人の體質は脂肪質の人ですから、脂肪分は澤山攝取しない樣にすると同時に、便通にも氣を配り若し通じのないやうな時は『チオノール』丸等を用ひて、通じをつけるやうにする事です。

多汗症　この病氣は貧血症とか神經衰弱症の人に一番多く、手掌や足蹠を始終汗でぢく／＼させて居て、甚だしい人になると不快な臭氣を發するのさへあります。で比較的輕症な人々は滑石末に『タンノホルム』を十パアセントの割合に交ぜた粉末劑で結構治りますがやゝ程度の進んで居る患者には患部をホルマリン石鹼で洗つた後、五若しくは十パアセントのフォルマリンアルコール液を塗布すれば良いのです。この種の皮膚には、小さな手袋や、窮窟な靴などを平常履いて居る事が一番不可なく、また靴を日常履く人は靴下が汗に滲んで居たり汚れて居たりするのを除けて、出來るだけ毎日洗濯したものを引換へ取換へ履くやうにし又、靴下の中には撒布劑を入れて置く事、常に手

洗を溫湯でする事等は心得べき事です。

次ぎに腋窩に腋臭のある人は、殊に夏を注意しないと一層臭味が募つて來るもので、是れを防ぐためには腋窩の空氣の流通を計るやうにしてホルマリン石鹼を始め、水藥、撒布藥を絕やさないやうにしなければなりません。尙ほ近來ではX光線で治療する事が流行して、相當な効果を揚げて居ります。

第三に黴菌に依つて發生する種類に就いて云へば、この內で最も普通のものが癤腫・腫物（ハレモノ）です。

癤腫、腫物　この皮膚病の出來始めのときは成可く刺戟を與へないやうにしてピックを貼つて置けば、一兩日の內にはその尖端に孔が開いて膿が出て來ますから、それに硼酸軟膏を貼れば困難なく治つて了ひます。所がそれをしないで手で觸れ廻したりしますと、腫口が次第に膨らんで來ると同時に痛みさへ加はつて來て、醫者の手を貸りなければ始末がつかなくなります。尙それだけならば未だ良いのですが惡症なものですが、淋巴腺が腫れて來たり膿を持つたりして、手術を待たなければならなくなる場合があります。特に注意を必要とするのは之れが顏等に出來た時で、若し熱が高かつたりすると腦を犯かされる危險があるのです。俗に云ふ『出もの腫れもの所嫌はず』でこの種のものは身體中、所嫌はずに出來ますが、夏等は腋窩とか股間に一番多いのです。又子供には『夏ぶし』と云つて澤山にこの腫物が出來るのを見ますが、さう云ふときは素人考へて一概に毒を出す事等はしないで、醫者に見せた方が良いと思ひます。

膿疱疹（デキモノ）　主な子供の皮膚病で、始めは水疱が出來それが腫を持ち續いて痂皮が生じるやうになるもので、數日の裡にどし／＼と數が增

へて行きます。之れは葡萄狀球菌が皮膚に浸入して起るもので、手當は出來るだけ急いでしないと終には手の付けやうもない迄に增へて了ひます。で始めの頃ならば〇・二パアセントのリブール水で洗つて痂皮のあるものには一日位硼酸軟膏をつけて置くやうにし、痂皮が取れたら五パアセントのビチロール軟膏か二パアセントのイヒチオール軟膏を塗つて繃帶をして置くのです。

水痘　素人見には前の皮膚病と良く似て居りまして、殊に子供に主に發患する事、蔓延の早い事など、兩方を同じ種類のものだと考へて居る人も少くない樣です。この病氣は傳波力の烈しいもので近所の子供にそれが出來たなと思つて居る裡に直ぐ我が家の子にそれが感染つて居ると云ふ樣に實に始末のならないものですから、治療は直ちにやる事が肝心で體質の虛弱な子供は特に癒りが惡いものですから、充分の手當を必要とします。その方法としては〇、二パアセント位のリゾール水をガーゼに浸して發疹部を洗ひ淸めた上、水疱をピンセットで刺し破つて膿なり水なりを取り去つてから、イヒチオル又はビチロール軟膏を塗つてその上に更らに亞鉛華澱粉を振り撒いて置くのです。そして下着等は薄いものを着せるやうにしてそれも每日取換へてやるのです。手當さへ良ければ蔓延力の早い割に、治るのは比較的早く、二三日で全治するものです。

同じ黴菌によつて發生するものでも、少し種類の異つた『カビ』の菌によつて皮膚病を引起す種類のものを極く簡易にお話します。之れは皮膚の表面に菌が附着して繁殖するもので容易に治るものもありますが、中には仲々頑强なのもあります。

水虫（汗疱疹）　この病氣は冬には殆ど姿を隱して居りますが、夏になると足の趾間や足蹠等に出來て來て臭味を發するものです。また夏出來て居

たものが涼しくなると影を潜めて翌年再び發生するやうな事もあります。治療法としては常に患部を消毒液で洗ふ事、靴下等も汗のないものを常に履くやうにする事が第一です。

白癬　この皮膚病は頭に出來た場合を『シラクモ』と云ひ顔に出來た場合を『ハタケ』と云つて居りますが、之れには『ミチガール』を一日二回位患部に塗るか、又はウンナ氏の亞鉛華黄硫軟膏を用ひれば良いのです。

紅色陰癬(エリトラスマ)　股間等の摩擦し易い所に紅い痣のやうなものが出來る皮膚病ですが容易に全快するものです。藥としては『ケリザロビン』、ミピチロール』を加へた軟膏を一日に一回宛塗るやうにすれば三四日の内には、その痣點も消へて了ひます。

頑癬(ゼニダムシ)　之れの方が本家格のタムシて皮膚に環状の圖を描き、それが段々と周圍に擴がつて行くのです。多くの場合は股間に出來ますが、痒ゆみがあるのでそれを搔くと菌が爪に着いて身體中に擴がつて行きます。時としては水疱を生ずる事があるものです。之れにはイリザビン、ピチール軟膏を一日に三回乃至五回塗れば良いのです。

最後に一言附け加へて置きたい事は皮膚病、に『タイドク』と云はれて居る病氣を治すと内抗するので身體が弱くなると云ふやうな事が云はれ、一般にその説を信じて居るやうですが、之れは誤解も甚だしいもので、治さないで放つて置くと却つて内抗すると云ふ風に、恰度反對の説の方が本當なのですから、若し皮膚の疾病のある時は、そのまゝにして置かないで、出來るだけ早く、出來るだけ完全に治して貰ひ度ものです。(了)